

人権啓発ネットワーク大東とは

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が2013年4月1日に設立しました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。

☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしたいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

入会等の申し込み・問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）

〒574-8555

大東市谷川1丁目1番1号

T E L : 072-870-0441

F A X : 072-872-2268

Eメール : j_keihatsu@city.daito.lg.jp



編集後記

夏が過ぎ、短かった紅葉の季節も終わり、急に寒い冬が正月にかけてやってきました。それでも「中学生の時に見た田んぼに氷が張っている景色は、近年見たことないねえ」と、結婚後40年を経た妻と昔話をしながら「ぬくもり」の原稿を読んでいます。「少し寒いと思ってもガス温風器の温度は下げよう」と、大東に雪が積もった若かりし頃を思い出して、二人で地球が温かくなっていることに気づいている昨今です。1月10日記。 (編集長)

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

上方落語 人権三羽鳥 揃い踏み！

人権週間記念のつどい

お笑いじんけん寄席

昨年12月8日(金)に開催された今年の人権週間記念のつどいは、露の新治さん・桂文福さん・笑福亭鶴笑さんをお招きしての「お笑いじんけん寄席」でした。「人権」について「笑い」を交えて考えることのできる場、ということもあってか、会場の総合文化センター大ホールは1,146人ものお客さんで賑わっていました。



第一部は、露の新治さんによる「お笑いじんけん咄(ばなし)」。笑顔が人権の礎(いしずえ)」という芯のもとに構成された落語は、お客さんにたくさんの笑顔を振りまきながら、その笑顔が人権を守っていく大切な力であるということを教えてくれました。「笑顔があるのは、命と暮らしが守られているから。命や暮らし(=人権)が守られていなければ、どんなに面白い落語をしても人々は笑えない。」という話に、みんなが笑っていられた環境

を大切にしていくことがいかに重要かを考えさせられました。基本的人権の基盤は自尊感情と語る露の新治さんは、「宝の子」という表現を例に出し、命・その人そのものを包みこんで大事にすることを訴えておられました。命や笑顔が大切、という意味で、戦争は「命の価値に差をつける、最大の人権侵害」だとも強くおっしゃっていました。差別は不当な分け隔て。自分ではどうしようもないこと、自分には責任のないことで差別されるなんてのもっての外なのに、血筋などで差別する部落差別なんてナンセンスだとはっきりおっしゃる露の新治さんのお話は、とても心強く、安心感のある内容でした。最近、加害者ではなく被害者にも被害責任を求めるような風潮がある、と警鐘を鳴らしつつ自分たちはどうか？と自分を見つめなおすことの必要性を語っておられました。

第二部は、笑福亭鶴笑さんの「人を傷つけない爆笑パペット落語」でした。鶴笑さんも笑顔で差別や争いをなくそうと、世界各地でご公演されています。紛争地帯にも行かれることがあるそうですが、「戦場でも笑うと仲良くなれる」などお笑い、笑顔が持つ力は絶大のようです。パペット落語では、会場からお手伝いをしてもらうなど、会場との掛け合いでたくさんの笑顔を生み出しておられました。(次ページへ)



↑ パペット(あやつり人形)を使った落語

第三部は「三羽鳥のお笑いじんけんトーク」のコーナーでした。露の新治さん、笑福亭鶴笑さん、桂文福さんが揃って、ご自身の話を「人権」の目線でお話くださいました。特に鶴笑さん、文福さんは地方のご出身のこともあり、訛りでご苦労されたようです。加えて文福さんは吃音もあり、文福という名前に決まる前に「田中どもる（田中は、本名の田中登より）やな！」と心無い言葉をかけられたというお話もしてくださいました。人を笑顔にすることで人権を守ろうとしている皆さんですが、「笑わせているのと、笑われているのは違う」とそのしんどさを語っていました。文福さんを救ったのは、師匠の先代・桂文枝さんでした。文枝さんは文福さんの吃音による間を「面白い間を持っている」と肯定的に捉えてくれたそうです。露の新治さんはお二人が今各地で大活躍されているのを、「支えてくれる人との出会いで、しんどいことがすごいパワーに変わる」と表現されていました。

第四部は桂文福さんと大東市伝統芸能「江州・河内音頭」連合会の市民有志による「ふれあい河内音頭」でした。市民有志のみなさんが舞台上で踊り、その前で歌う文福さん。会場からも手拍子が起こるなど、大盛況でした。音頭の中に、ある施設で身体障がい者のお客さんからいただいた、車椅子を揺らす、机を肘でたたくなどの「拍手」に気づけず、後で教えてもらって涙を流したというエピソードがあり、「その人」の姿を見る・理解しようとする大切さと、それに気づいて涙を流す文福さんの優しさに触れることのできた時間でした。



(レポーター 卓ちゃん)

い い とないの生き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる
取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

挑戦系

シンガーソングライター 名迫僚太さん

今回は大東市出身の「挑戦系シンガーソングライター」名迫僚太（なさこりょうた）さんにインタビューをしました。名迫さんは、大阪を中心に全国各地でご活躍中です。どのライブでも「大阪府大東市からきました」と自己紹介するほど大東愛に溢れた名迫さん。そのこだわりと、「挑戦系」の肩書きに込められた思いを中心にお話を伺ってきました。

地元大東で生まれ育った名迫さんは、大学在学中にアルバイトをしていた塾の先輩の影響で音楽の世界に飛び込みます。最初は趣味として始めた音楽活動ですが、オリジナル曲をライブで演奏す

るようになると、徐々にお客さんから「明日もがんばれるわ」などのリアクションをもらえるようになっていきました。そのような経験の積み重ねがあり、「音楽でやっていきたい」という思いが強くなりました。なんと、音楽を始めて間もないご自身の成人式でもオリジナルソング「二十歳～新世界へ踏み出す人～」を披露したのです！その後、ストリートミュージシャンとしての活動、野崎詣りでのライブや、2015年はサーティホール多目的小ホール、16年には大ホールでのライブとステップアップし、レストランでの毎月のディナーショーなど大東市に根付いた力強い音楽活動を繰り広げてきました。そして、17年には「大東ズンチャッチャ夜市」の公式テーマソングを歌うなど、活躍の幅を広げられ、9月末には夜間議会で代表曲「Challenger」(チャレンジャー)と「キレイな月」を披露されました。

初めてのオリジナル曲「Challenger」は、「今からすべてが始まるのに物怖（お）じしてても仕方ない、全部やりきろう」という思いで作った、まさに「挑戦」の原点の曲です。そして「キレイな月」は最寄り駅から自宅までの帰り道で作った歌で、ビデオ撮影は地元大東市でされている「地元の歌」。歌詞もがんばる人の背中をそっと押すような、人の「挑戦」に寄り添った歌だと感じました。



名迫さん自身の「挑戦」もとどまることを知らず、3月29日（木）に初の地方ワンマンライブが愛知県で決定、テレビ番組への出演など、盛りだくさんです。カラオケでもジョイサウンドで「Challenger」が配信され始めました。

大東で生まれ育って、たくさんの出会いや支えの中で、今の自分が出来ていったと語る名迫さん。「もっとたくさんの方に大東のことを知ってもらいたい、遊びに来て欲しい」と熱く語られ、「今、大東に住んでいる多くの人にも、より『大東って

いいとこやなあ』と思ってもらえるように、自分は音楽シーンで盛り上げていきたい」と素敵な思いをお話くださいました。

ライブにもお邪魔させていただいたのですが、そういった名迫さんの魅力に惹かれたファンがたくさん。プログラムもお客さんと「みんなで」歌うポイントをたくさん取り入れ、会場が一体となって楽しめるような、とても楽しいライブでした！

(レポーター 卓ちゃん)



←名迫僚太 official web site
(<https://www.nasakoryota.com/>)

iTunes 名迫さんのプレビュー →
(iTunes store で
「名迫僚太」を検索！)



名迫さんの楽曲が iTunes
で配信され始めました。
サンプルも聞けるそうなので、
この機会に是非！

とんだ 高槻市「富田」の福祉と人権の まちづくり構想を学んで

「富田」は高槻市の西の端にある小さな街です。その小さな街富田が、人権文化の発信基地として今、福祉と人権・協働のまちづくり事業を実践しています。この事業は、法律や行政の届かない地域の課題に対して、その課題解決に向けて、地域住民の協力で取り組みを進めようとする国の「我が事・丸ごと」地域共生社会づくりを、地域で先取りしていると思わせるものでした。富田では16年前にまちづくりプロジェクトを結成し、現在は一般社団法人タウンスペース WAKWAK（わくわく）が中心となって進めています。人権啓発ネットワーク大東役員・常設委員の研修で、昨年11月2日、15人が富田の地域を訪問し、タウンスペースWAKWAKの方に現地の案内と事業の説明をしていただきました。

富田には子どもから高齢者まで、どこの街にもみるように様々な背景を持った人たちが住んでいます。中学校単位で住民の一人ひとりを地域社会で包み込むセーフティネット体制を作り、実践するというものです。具体的には、①生きがいと居場所づくりとして、既存施設を活用して子どもたちの絵画など芸術活動のボードレスアート教室やあそび活動などを開いたり、おはなカフェ事業などを通して子育て中のママさんへ支援をしたりする活動 ②高齢者を地域で支えあうための家事代行支援や配食などの困りごとお助け隊事業、ライフサポート市民後見事業 ③障がいのある人たちが親なき後も地域で生きていく場としての障がい者通所事業所運営やグループホーム建設とその運営事業 ④子ども貧困対策、学習支援事業、そして地域の人たちから旬の食材を寄付いただきながらの子ども食堂の運営と子ども達の夕刻を支える場づくりなど、地域のニーズを掘り起こしてその活動を実践されています。目指すゴールは、中学校単位で地域・家庭・学校と協力しながら、様々な背景を持つ子どもや人々を受け止めるセーフティネットを創ることだといえます。これらの活動資金は、寄付金や講演の謝礼金、事業収入などで賄っているとのことでした。



おはなカフェにて

お話を聞かせていただいた後、富田の街を歩かせていただきました。都市部のごく普通の街並みで、それでも地域住民が知恵を出し合うことと、少しの踏み出す決意があれば、大東市でも何かができるかもしれないとの思いを持って、現地を後にしました。

(レポーター 松ちゃん)

人権啓発地域集会に参加して

わかりやすかった知的障がい者理解ビデオ「風の匂い」



地域集会は、市と人権啓発ネットワーク大東、各自治会の共催事業で、毎年開かれています。レポーターが参加した地域集会は、自治会の公民館で開かれ、30数人が参加されていました。

会は、地元区長さんのあいさつの後、ビデオ「風の匂い」を見て、私たちや雇用主は、知的障がい者にどのように接し、働くことをどう支援できるかを考えさせる、よくできたビデオでした。

ビデオのあらすじは、次のようでした。

【知的障がい者の歩は、スーパーマーケット側の障がい者雇用によって、清掃担当社員としてスーパーに雇用されます。店長は、知的障がい者の雇用に迷惑な顔をし、仕事の指導係に、歩と幼馴染だった正人を付けますが、正人は歩を知らないふりで接します。

歩の障がい特性を知ろうともせず、何の配慮もしないまま起こす歩の失敗に、正人は大声で怒ったり、そばにいた社員からも強くせめられて、歩はかがみ込んだまま「すみません。すみません。すみません。」を繰り返すばかりでした。

次の日から歩は欠勤。家庭訪問をした正人は、歩の母から、前の職場でいじめられてやめさせられたことを聞き、ベッドでうずくまる歩を見て、障がい者就業・生活支援センターに相談することを店長に提案。ジョブコーチからの助言によって、初めて知的障がい者の障がい特性を踏まえた合理的配慮にもとづく接し方に気が付きます。「お客さんに真心を込めて」の歩の考え方は、店内から障害物を移動するなど、障がい者や高齢者に優しいお店へと変わっていったのです。】

ビデオのあと、座長として出席されていた人権擁護委員さんから、「私たちは、自分の価値観や基準で物事を判断してきた気がします。人を大切にし、豊かなつながりのある関係を築いていくには、普段の日常生活の中で考えることが大切だと思います。」との問題意識を受けて、参加者に感想を求めました。

出された感想は次のようでした。

女性 「相手を大切に思うこととビデオにありました。私自身、父のことでしんどい思いがあり、もうイヤと思うこともあるが、大切に思うことを知らされました」

女性 「障がい者は可哀そうという人もいるが、そんなことはない。障がいのある人たちも楽しい日々を過ごしている。違った目で見えてはいけないと思う。」

男性 「会社で障がい者雇用をしているが、集中力があって繰り返しの作業がすごい。」

男性 「障がい者施設では障がい者の行動に言うに言えない負の部分もあると聞く。研修では、障がい者について正負の両方を話してほしい。」

など、他にもたくさん出されました。

最後に、座長から「障がいのある人たちの一人ひとりの特性を許容しながら、一つひとつ学ばせていただきたいものです。」のまとめで散会しました。有意義な地域集会でした。

(レポーター 松ちゃん)

つながる めくもい

～2017年度をふいかえって～

今年度も市民によりそった行事をたくさん企画しました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。

人権パネル展



昨年の5月に野崎まいりて賑わう野崎観音で「あなたがあなたらしく わたしはわたしらしく ～ LGBTってなにあに～」と題して、人権パネル展を開きました。1日から4日までで1,353人の人たちの来場がありました。現在、日本では13人に1人がLGBT当事者と言われています。違いを認め合い、多様な生き方が尊重される社会はきっとすべての人に生きやすい社会です。そんな社会をめざし、今回のパネル展を企画しました。

憲法週間記念のつどい



同じく5月には、憲法週間記念のつどいとして、小室等・こむろゆいさんによるトーク&コンサート「～いま生きているということ～」を開きました。阪神・淡路大震災の5か月後に発足したNPO法人「ゆめ風基金」の呼びかけ人代表としても活躍されている小室等さんです。懐かしいフォークソングを聞いた後には、心温まるトークを披露され、本当に楽しい時間となりました。

また、その前にあった笑福亭鶴笑さんのパペット落語には文字どおりおなか痛くなるほど笑いました。聞けば、「国境なき芸能団」として世界の戦地難民キャンプを回って世界中に笑いの渦を巻き起こしているとのこと。

笑いとお歌の楽しい時間となりました。

市民・会員交流フィールドワーク



7月に、和歌山県広川町に36人の参加者がフィールドワークに行きました。そこは、現在から164年前の1854年に安政南海地震が起こった地域です。その地震のときにはヤマサ醤油の濱口梧陵（はまぐちごりょう）が避難の目印に稲をたくさん積み重ねた「稲むら」を燃やし、避難道を明らかにし、多くの人命を救ったと言われています。また、濱口梧陵はその復興のために私財をなげうって、被災者を救済するとともに大きな堤防を築き、地域住民への仕事も作り出しました。そのような地を見学し、津波に関する防災意識を改めて

学習し、加えて現在の防災知識も学んできました。

親と子で平和を考えるつどい

9月に、キラリエホール2でアニメ映画『そう列車がやってきた』の上映が行われました。戦時中の動物園を描いたこの映画では、いわゆる戦場の様子ではなく、「当時の市民の生活」から平和について考えるというものでした。映画上映の前には、ピースおおさかに行った「平和バスツアー」の報告と「ヒロシマ記者事業」の報告が二つの小学校からありました。また、会場には平和バスツアー・ヒロシマ記者事業の報告の展示、平和パネル展「大阪空襲・戦時中の市民の生活」として、多くの資料が展示されました。



地域集会

温かいまちづくりをめざそうと大東市では毎年、人権の大切さについて考える「地域集会」を開催しています。市内の各自治会の皆様の協力と応援があればこそその事業です。今年度は、知的障がいをもつ青年が社会との共生をめざすために私たちがどうすればいいのだろうかと考える内容となっています。ビデオを見た後、参加者の経験談やご意見を聞いています。参加した多くの方から「参考になることが聞けてよかった。」という声を寄せていただきました。



他にも
 ・市民じんけん講座
 ・ヒューマンコンサート
 ・人権啓発指導者養成講座
 なども企画しました!

